DESIGN GRADUATION WORKS 2016

会津大学短期大学部 産業情報学科 デザイン情報コース 卒業作品集 **CALENDAR** 2016.4 - 2017.4

ごあいさつ

この「作品集」は、「デザイン情報コース卒業研究発表会」、「卒業研究発表会」、「卒業研究発表会研究要旨集」、「卒業展」と、広く一般の方々に公表し、ご批判を仰いでまいりました、会津大学短期大学部産業情報学科デザイン情報コース卒業研究ゼミナールの成果を示す、今年度最後のものです。「作品集」の発行も今年で12回目を迎えました。お身近にお使いいただけるように編集いたしましたカレンダーも8回目です。

産業情報学科では、卒業研究ゼミを 必修科目として位置づけ、デザイン 情報コースでは1年次の後半からプレゼミとして実施し、2年次より具体的なテーマを設定し、問題解決能力や創造性の研鑽にとりくんでまいりました。その内容はWebデザイン、グラフィックデザイン、漆工芸作品、地域振興、復興支援、製品デザインと様々ですが、いずれも地道な研究を裏付けとした力作です。

今年も具体的な地域の問題をベース

としたテーマが多く見られました。 地域の活性化ということでは「奥会 津: 只見線沿線エリアの活性化デザ イン」、「会津野鍛冶の調査研究とプ ロモーションのためのデザイン提案 -会津若松市 堤製作所「姫鍬」の研 究一」、「会津における祈りに関する WEBサイトの提案」などが地域の 方々の協力をいただきながら進めら れ結実しております。復興支援とい うことでは、「年貢町復興住宅におけ るコミュニティカフェの提案」、「被 災地における子供のための活動拠点 の研究-震災後につくられた児童施 設の研究と閖上地区のデザイン提案 ー」があります。「新しい漆食器の提 案-これからの2人のために-」、「小 水力発電を身近に」も、温故知新を はかった具体的な提案です。その他 の作品も各分野で学んできたことの 集大成として見応えのあるものです。 学生諸君にとっては、学生時代の創作 への熱意と、活力に満ちた日々の証 として、知性と感性を方向け、創造へ

の情熱を持って過ごした時期です。 その中で創造された作品は、よき思い出になるものと期待しております。 卒業する学生諸君には、この卒業研究ゼミで経験したプロセスと反省を通じて、創造することの喜び、諸問題に挑戦するエネルギー、充実したときを過ごして得た達成感などを糧に、 今後の社会生活の中でさらなる飛躍につなげていってほしいと願っています。

最後に、卒業研究および卒業制作に ご支援、ご協力をいただきました学 内外の関係者のみなさまに深く感謝 し、厚く御礼を申し上げます。

この作品集は広く学外にも配布して 広くご高覧に供します。忌憚のない ご意見、ご批判を賜れば幸甚に存じ ます。

2016年3月 会津大学短期大学部 産業情報学科

デザイン情報コースの分野紹介

インターフェイス INTERFACE

横尾ゼミ

インテリア

柴﨑ゼミ

グラフィック GRAPHIC

高橋ゼミ・北本ゼミ

クラフト

井波ゼミ

プロダクト PRODUCT

時野谷ゼミ

Webデザインを中心に講義・実習を進めていきます。Webサイトで見られる画像や音声、そして動画などを扱うデジタルコンテンツ制作のための基本的な技術を学び、デザインに応用していくことを目指します。また、Webサイトで必要とされるユーザビリティ(使い勝手)、さらにはアクセシビリティ(例:高齢者にも対応した使いやすさなど)を考慮に入れたWebサイト制作など使う人の視点に立ったデザイン方法を学びます。

戸建住宅や集合住宅の室内空間、喫茶店などの商業空間、公共建築物の室内空間など、建築物を対象とした空間デザインの考え方・手法を学ぶとともに、人間にとっての居住空間のあり方や居住環境をいかに整えるかを考えます。 ゼミでは、家具デザインからインテリア・建築デザイン、都市・地域デザインなどを範疇として、問題点の発見から解決までを自ら考えます。これらを通して、居住環境を創造できる人材を目指しています。

広告・出版・印刷に関連する業界で将来活躍できる人材を目標にしています。 実習やゼミの授業では、ポスター、カレンダー、ポストカード、パッケージ、 新聞広告などといったグラフィック作品や、絵本やタウン誌の編集制作など を実際につくりながら学んでいます。グラフィックデザインに関する専門知 識を学ぶだけでなく、常に見る人の気持ちになって考え、そして創造するビ ジュアルデザインの基本を大切にしています。

全国でも10校余りしかない大学機関での漆芸専門教育の中で、古来日本の文化を培ってきた漆という自然素材を通してモノづくりについて研究します。 漆工芸の基本技法について学びながら、ろくろや板物などの木工や、椀、蒔絵、乾漆、造形物などの作品制作を行います。手仕事の重要性や自らの手で創りだす意義について深く考察し、柔軟な発想力を育てデザイナーとしても新たな可能性を追求できる人材育成を目標とします。

テレビ、電気炊飯器、掃除機、冷蔵庫、電話機、洗濯機、ステレオ、CDプレーヤー、パソコン、プリンター、コピー機、椅子、テーブル、自転車、自動車など生活に密着した工業製品のデザインについて学び、関連分野で活躍できる人材の育成を目指します。そのためにデザインに関する基本技術の習得と社会広く見つめ、どこに改善すべき点があるかといった問題意識をもち、その解決策を模索することのできる能力の修得を目指します。

目次

掲載月

研究テーマ

氏名

4 APRIL 会津における祈りに関するWEBサイトの提案

近内 まい 清水 廉久 中野 馨子 山崎 瑞季

色と音を使った発達障害の子ども向けのタブレット教材の提案

齋藤 絢

写真撮影初心者のための作品相互評価ツール

鈴木 将平

会津野鍛冶の調査研究とプロモーションのためのデザイン提案 一会津若松市 堤製作所「姫鍬」の研究一 遠藤 由紀

6

5 MAY

年貢町復興住宅におけるコミュニティカフェの提案

小山 真由

聴覚障がいからみたUDの調査・研究 一会津若松駅前広場における新たなバスターミナル・待合所のUD提案 一 高橋 千紘

JULY

只見町番匠に継承される巻物と伝統住宅の研究 - 只見町伝統住宅の研究と活用デザイン提案 -船木 美沙

被災地における子供のための活動拠点の研究。一震災後につくられた児童施設の研究と閖上地区のデザイン提案一 三浦 望

8 **AUGUST** 奥会津・只見線沿線エリアの活性化デザイン

笠井 ルリ子 坂田 れい実 澁谷 朱里 瀬切 未知佳 東山 夏実 松田 涼花

クッキーのパッケージデザイン 一女性をターゲットにしたデザインと販売方法の提案 一 和泉 琴子

戦前の文学作品紹介ポスター 一東北ゆかりの文豪たちを取り上げる一 及川 香純

観光地における個包装デザイン
一女性向けの饅頭パッケージの提案一 大堀 舞美

SEPTEMBER

10 october 「会津のべこの乳アイスクリーム」商品ポスターの提案 一写真とコピーによる表現構成一田代 汐莉

包装紙のデザイン提案 一東北地方の特徴を視覚的に表現したデザインー 中田 満里奈

11 NOVEMBER 家紋の意味・由来を伝承するための図録 一蛇腹折を活用したエディトリアルデザインー 福西 友実

漆でお米をおいしく

植竹 春日

漆糸の研究と製品制作 一編み目の活用一 菅野 麻結

休日の大人のための漆鞄

酒井 和希

JANUARY

FEBRUARY

3 MARCH

DECEMBER

受け継がれていく漆 一想いを漆にのせて一

坂本 杏理

新しい漆食器の提案 一これからの2人のために一

佐藤 沙妃

冠婚葬祭と漆

芳賀 祥子

今井 千聖

持ち歩ける防煙マスク 一身を守るためのツールとしての選択一

子供のための箸トレーニング おもちゃの提案

尾形 彩

小水力発電を身近に

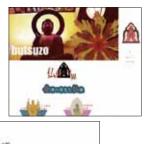
金田 祥平

4 APRIL 高齢者と孫世代をつなぐ製品 ーコミュニケーションツールとなるおもちゃの開発ー 佐藤 ちひろ

家庭における食品ロスを減らすための製品の提案 一電気を使わない野菜ストッカーー 渡部 春希 APRIL 2016













テーマごとのトップページ

会津における祈りに関するWEBサイトの提案

全国に出回る仏具などの宗教用具の60% は会津地方で生産されているが、あまり知 られていないのが現状である。例えば年間 およそ10万人亡くなる内の6割の方が 持っている位牌は、そのうちの半分が会津 宗教用具協同組合に参画している会津の企 業で生産されたものである。それらを背景 として、普段の生活と関わりが少ない位牌 や仏壇等の宗教用具の敷居を下げ全国の 方々にPRしていき、ひいては会津の知名 度上昇へ繋げ、地場産業の活性化につなげ

るために、私たちは会津宗教用具組合と協 力して共同でプロジェクトを立ち上げるこ ととした。本プロジェクトは、協力して広 告媒体を作ることによって、会津は宗教用 具の生産地であることを知ってもらう WEB サイトを制作することである。 会津の 「祈り」をテーマにWEBサイトを展開する こととし、それぞれ立ち上げた企画をコン テンツ化する。そしてそれらをWEBサイト で公開することによって、人々に会津を手 軽に広く知ってもらうことが目的である。

WEBサイト

近内 まい 清水 廉久 中野 馨子 山崎 瑞季

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13









実証実験



色と音を使った発達障害の子ども向けのタブレット教材の提案

タブレット教材

発達障害の子ども達を身近で見て育ち、 全国でも数十人しかいない音楽療法士だ けではその子ども達のリハビリを行うこ とは不可能だと感じた。音楽療法士のリハ ビリを受けたくても受けることができな い子ども達のために、今日普及しているタ ブレット端末を使用した教材の提案をす ることにした。自閉症・染色体異常・ダウ ン症の子ども達に参加してもらい事前調 査を行い、その結果からレベルに合わせた 教材を作成した。本研究では、音楽療法で 用いられる媒体と同じ、「視覚(色)」と「聴 覚(音)」を媒体とし、その際にApple社の 新プログラミング言語「swift」を使用し た。作成終了後、事前調査に参加しても らった発達障害の子ども達に実際に作成 した教材をiPadやiPhoneというiOS向け の環境で実証実験を行った。その場でユー ザーの親に評価をしてもらい、改良を加え た教材で再び学んでもらった。事前調査と 実証実験から得た結果から、発達障害の子 ども達に有効なものであったと感じる。

齋藤 絢

28

29

昭和の日

MAY 2016



3 憲法記念日

4 みどりの日

5 こどもの日

6

7

8

9

10

11

12

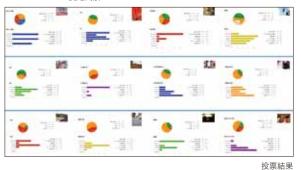
13

14









完成品

写真撮影初心者のための作品相互評価ツール

評価ツール

写真を始めたばかりの初心者にとっては、 自分の写真を誰かに評価してもらうこと は非常に重要である。だが、現実に自分 の写真を評価してもらう機会を設けるこ とは難しい。このツールはその機会をコ ンピュータ上で設けるために作成した。 コンピュータを用いることで、手軽に写 真を評価してもらう(また誰かの写真を評 価する)ことが可能となる。ユーザーは、 ブログ感覚で簡単に写真を投稿すること ができ、評価もワンクリックで簡単につ

けることができる仕様になっているため、 コンピュータの操作に不慣れな人でも扱 いやすいものとなっている。このツール を使用した写真初心者が、今以上に写真 を好きになり、撮影を楽しむようになっ てくれることをコンセプトとしている。 「これを知る者はこれを好む者に如かず。 これを好む者はこれを楽しむ者に如か ず。」それこそが上達への最善の道だと考 えている。

鈴木 将平







堤製作所との打ち合わせ



展示販売の様子



会津野鍛冶の調査研究とプロモーションのためのテ

一会津若松市 堤製作所「姫鍬」の研究一

福島県会津若松市馬場町にある堤製作所 で製作している姫鍬は、ブランド鍬とし て広く知られているが、農業の機械化に よる鍬の使用減少や、震災の影響で需要 が減っており、鍬の売り上げも年々減少 傾向にある。堤製作所は現在、女性の社 長と職人数名で経営をしているが、鍬の 販売は直接販売がほとんどで、パンフレッ トやホームページなどはなく堤製作所を 知るための機会や媒体が少ない。本研究 では堤製作所の姫鍬を「見て」、「知って」

もらうための提案を行った。姫鍬の展示 販売は、道の駅 「あいづ 湯川・会津坂下」 にて12月の11・12・13日に行った。展 示ブースのデザインは、高さ180cm 幅 各20cm~50cmのものを各2枚ずつL 字に留め、それらを7つ作成し屏風状に 配置した。展示販売は予想に反し多くの 来場者があり、堤製作所を見知してもら うことができた。何より展示販売等は次 につなげられる結果となり、これからの 可能性を感じてもらうことができた。

遠藤 由紀

	15
	16
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	17
	18
	19
	20
	21
	22
	23
Y	24
^{展示ブース} デザイン提案	25
文・パンフレット・ポスター	26
	27
	28
	29
\ + ++ , , , ¬	30

DESIGN GRADUATION WORKS

JUNE 2016







パネル展示の際のアンケート調査



フォトフレームに彫刻を施している参加者



本設力フェでの昼食風景

年貢町復興住宅におけるコミュニティカフェの提案

論文・家具・ポスター

東日本大震災で被災した多くの方は、未だに仮設住宅、復興住宅で生活を送っている。復興住宅には、様々な地域から世代等異なった方々が集っている。東日本大震災によってつくられた復興住宅には数は少ないが交流のための、ちょっとした憩いの場である集会所やカフェ等が設置されているところがある。今回、カフェを提案する年貢町復興住宅は、入居以来ほとんど交流の機会がなかったところであった。年貢町復興住宅にヒアリング調

査、カフェの提案を行った際、集会所はあるものの具体的な団地内でのコミュニティ形成はなされていないようであった。3つの市町村の方々が共同で住んでいること、また、高齢者の単身世帯が多いということもあり、外に出る機会が少ないというヒアリング結果だった。そのような現状を少しでも緩和し、コミュニティ形成のきっかけづくりができればと思い、カフェで使う家具テーブル、ワークショップでフォトフレームの制作を行った。

小山 真由





バスターミナル 部分模型



待合所 部分模型

論文・模型

聴覚障がいからみたUDの調査・研究

一会津若松駅前広場における新たなバスターミナル・待合所のUD提案ー

会津若松市は、「安心して暮らせるやさしい にやさしく、暮らしやすいまち」の実現を目 指して、まちづくりの各分野にわたり取り組 んできた。しかし、UDにおいて、聴覚障がい の視点からデザインされたモノの数は少な い印象である。UDというと、視覚障がい者 や肢体不自由者を対象にしたデザインに目 が行きがちであるが、ここでは自らの障がい からの視点を主体に、UDの概念のなかで主 に聴覚障がい者へのヒアリング、現地調査等

を行いながら、UDの活性化の過程におい まちづくり」を位置づけており、「すべての人 て、どのような提案ができるかを考えなが ら、会津若松駅前広場を中心に調査・研究に 取り組んだ。デザインを行うにあたり、UD としてもっとも意識したことは「見える」こ とである。聴覚障がい者のみではなく、でき るだけ可視的で誰が見ても一目で何かわか るようにすることを意識した。そうすること で、自分だけではない、健常者にとっても 「どうしたらよいかわからない」というスト レスが少しだけ軽減されると考える。

高橋 千紘

15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28

29

DESIGN GRADUATION WORKS

JULY 2016



船木家リノベーション提案



船木家三角の天秤構造



只見町黒谷船木家軸組み模型



番匠巻物

只見町番匠に継承される巻物と伝統住宅の研究

一只見伝統住宅の研究と活用デザイン提案一

只見町では古より大工のことを番匠(ばんじょう)と呼んでいる。只見町の職人は棟梁から一人前の証として、代々巻物を受け継いでいる。番匠巻物には由来、道具、儀礼の作法等が記されているのみで、工法等については触れられていないことが文献調査で分かった。また、現地調査では只見特有の「まがりや」(厩中門造り)が120程度残っていることが分かった。只見町では、現在は番匠の後継者不足が問題となっている。本研究では、代々伝

わってきた「まがりや」の工法等を、実測調査と軸組み模型を作成することで理解を深め、屋根や軒の積雪に耐える独自の工夫等を解明する。さらにこの工法等についての調査結果をもとに、只見町における民家の活用デザイン提案を行い、伝統工法の継承と住みよい環境づくりを目的とする。成果は、実測調査を行った只見町黒谷船木家住宅の軸組模型とそのリノベーション提案である。

論文・模型

船木 美沙

7

1

2

3

4

5

6

7

8

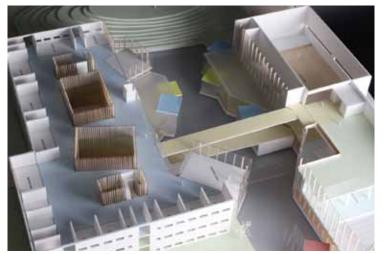
9

10

11

12

13



閖上小中学校デザイン提案模型



東日本大震災において津波被害を受けた

校の再生は計画されているものの、子供

たちの支援といった計画は進められてお

らず、子供たちが閖上地区でこころのサ

ポートを受けることはあまり期待できな

い。よって本研究は、震災後つくられた

子供センター等を調査し、子供たちが安

心して暮らすことのできる閖上小中学校・

子供センターの施設提案と周辺の街づく りを提案した。表現媒体は計画敷地模型

閖上地区復興敷地模型

被災地における子供のための活動拠点の研究 一震災後につくられた児童施設の研究と閖上地区のデザイン提案一

地元宮城県名取市閖上地区は、小中一貫 案では、避難路の整備とコミュニティ形



閖上小中学校デザイン提案模型



インを考えた。普段、避難路は閖上地区 の人たちが図書館やプールを利用する際 に自由街路として集まることができるよ うにし、避難路は、丘の上に逃げられる ように道を正確に表すように心がけた。 また、学校と施設はある一定のところで

空間を分け、生徒の学習環境や防犯面か

らも安心できるようにデザインした。

と閖上小中学校デザイン模型である。提

成を考え、まちと学校が"つながる"デザ

	15	
	16	
	17	
	18	海の日
	19	
	20	
No.	21	
	22	
and the same	23	
	24	
閖上小中学校デザイン提案模型	25	
論文·模型	26	
	27	
	28	
	29	
三浦 望	30	

AUGUST 2016







都営地下鉄電車中吊り広告(冬)



ゼミ生集合写真

奥会津・只見線沿線エリアの活性化デザイン

奥会津地域には少子高齢化や過疎化など根 本的な問題があったが、追い討ちをかける ようにJR只見線は2011年7月に起きた 新潟・福島豪雨により、一部の橋梁と路盤 が流出するなど被害を受け、現在も会津川 ロー只見間が不通となっている。過疎地で あることに加え知名度も低いため利用者数 は少なく、復旧の目処も立っていない。そこ で今回私たちは、東京大学・拓殖大学・大 月短大の学生達との意見交換を踏まえつ つ、奥会津地域のPRを通して只見線沿線

エリアの活性化・只見線の乗客数増加を目 指すことにした。奥会津五町村活性化協議 会と連携し、「会津短大生による奥会津PR パンフレット・グッズのデザイン提案」をお こなって、実際に都営地下鉄電車での広告 展開や各種PRツールを完成させた。また、 他大学との合宿を通じて、「奥会津でのオ プショナルツアープラン」という新たなPR を試みることになり、株式会社シンクの 方々と連携し、ツアープランを一から提案、 リーフレットの制作を行うに至った。

大型ポスター・パンフレット 他

笠井 ルリ子 坂田 れい実 澁谷 朱里 瀨切 未知佳 東山 夏実 松田 涼花

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11 山の日

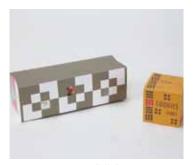
12

13





カボチャ味のパッケージ



複数購入用のパッケージ



クッキーのパッケージデザイン

一女性をターゲットにしたデザインと販売方法の提案一

現在、各所のお菓子売り場では、一つの 商品に対して展開されるパッケージデザの提案の目的は、消費者に選ぶ楽しみを インの数が少ないという共通の問題があ る。またお菓子の詰め合わせを購入する 場合、複数の味を自由に組み合わせるこ とができない。この状態では消費者の選 択肢が限定されてしまうため、それを改 善するためのパッケージデザインと販売 方法が必要であると考えた。そこで、複 数の味を選択できるクッキーを多様な パッケージデザインで展開し、販売方法

を工夫する新しいモデルを提案した。こ 与えるとともに、個人の好みに合った商 品を選びやすくして買い物を娯楽として 捉える女性の購買意欲をさらに高めるこ とである。今回のパッケージデザインは、 それぞれまったく異なるデザインにする ことを心がけて制作したが、アンケート 調査の結果に基づいて落ち着いた色を 使ったデザインの割合が最も多くなって いる。

阳永 今丁

31

45	17
	18
	19
120種のパッケージ	20
120407(7)	21
	22
COOKIE	23
	24
イチゴ味のパッケージ	25
パッケージ	26
	27
	28
	29
和息 琴子	30

15

SEPTEMBER 2016











蟹工船

ポスター

2

3

4

5

7

8

9

10

11

12

13

14

戦前の文学作品紹介ポスター

一東北ゆかりの文豪たちを取り上げる一

近年、インターネットが普及し、文学作品 がどこでも読めるツールが多く存在する ようになった。しかし、その様な環境に あっても、若者の活字離れが叫ばれてい て、特に文学は著しい。その原因の一つに、 文学作品に触れる機会が無いことがあげ られると考えられる。そこで、本研究では、 文学作品に興味を持つ機会を提供したい と考えた。紹介作品の作者を東北出身者 に絞り、東北の若者にも伝わるようなポ スターを制作した。発行当時の印作物の

傾向(当時の流行色)を元に、文学作品の 一文をポスター内に構成し、表現してい くことができた。しかし、戦前の文学作 品を取り上げたことにより、発行当時の 印刷物の傾向を使い、過去の作品を現代 の人に伝わるように制作することの難し さ、情報伝達の難しさを改めて実感した。 また、作品の良さをポスター内に表現し 伝えられるかという部分に悩み、伝えた いことを明確にビジュアル化ができな かったことが反省点である。

及川 香純





店頭に並んだ際のイメージ



皆生温泉のパッケージ

観光地における個包装デザイン

一女性向けの饅頭パッケージの提案一

全国の温泉街には必ず土産品が売られて いる。その中でも、温泉街の土産品とし て多く見られる饅頭のパッケージは、外 側の箱に紙ラベルを巻いただけのものや 透明のビニールのものといった簡素な包 装が多い。また、土産物の饅頭は少数で 売られているものはあまり見ない。少数 の人に贈る時や自分用に少しだけ食べた いと感じている方に10個以上は多く、日 数が経ち腐らせてしまうケースが多々あ る。そこで本研究では、制作する温泉街

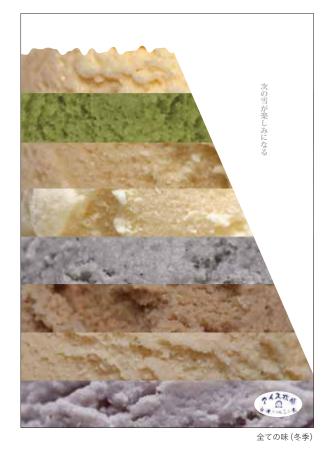
を10箇所に絞り、各温泉街3種類ずつの 計30個の個包装デザインを提案した。温 泉街を観光した際の十産品として購入す るのを目的としているため、各温泉街の 特産品や自然をモチーフにした柄を制作 した。また、男性よりも女性の方が土産 品の購買意欲が高いため幅広い年代の女 性をターゲットとした。女性に好まれる 色合いや柄を調査し、購入する楽しさと 土産物として貰う嬉しさの両方を感じら れるデザイン制作を心掛けた。

パッケージ

15	
16	
17	
18	
19	敬老の日
20	
21	
22	秋分の日
23	
24	
25	
26	
27	
28	

30 大堀 舞美

OCTOBER 2016





抹茶味(夏季)



ヨーグルト味(夏季)



柿味(冬季)

ポスター

2

3

4

5

6

7

8

9

10 体育の日

11

12

13

14

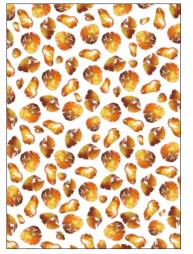
「会津のべこの乳アイスクリーム」商品ポスターの提案

一写真とコピーによる表現構成一

会津中央乳業が製造販売する「会津のべこ の乳アイスクリーム」の商品ポスターの提 案をテーマに、1年を通して制作研究を進 めてきた。商品の宣伝媒体はホームペー ジ以外に存在せず、会津地域での宣伝効 果を高めることや、牛乳に対する強いこ だわりや高い品質を持つ魅力的な商品と して地産地消を促すことも目的とした。 会社への取材から「会津らしさ」のあるポ スターを求めていることを知り、それを 踏まえてアイスクリームの写真とコピー

を使用してポスターの紙面構成をした。 季節に合わせて夏季と冬季の2パターン を、それぞれ8種類の味と、全ての味をま とめたもの合わせて、全18種のポスター を制作した。会津の豊かな自然や素朴な 雰囲気を、アイスクリームと関連させなが ら、世代や性別を問わず好まれるような デザインをした。制作をしてみて、自分 の表現が伝わらないこともあり、視覚を 通した情報伝達の難しさを改めて感じた。

田代 汐莉







15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31



包装した状態

包装紙のデザイン提案

一東北地方の特徴を視覚的に表現したデザイン一

包装紙は、物を包み保護するだけではな く装飾性も兼ね備えており、おもにデパー トや百貨店、観光地の店舗など、全国各 地の店舗で使用されている。包装紙の色 や柄は豊富であるが、それらは費用(印刷 費・デザイン費)をかけている。地方の観 光地は経済的な理由からその余裕がない ため、都市部の有名デパート等とのデザ インの質に差が生じる。また、種類が少 なく中高年に向けたデザインに偏ってい るため、若者にも興味を持ってもらえる

デザインにしたいと考えた。今回は、自 分自身に縁のある東北地方に限定するこ とにした。明快な白の線や模様といった はっきりとした表現と、にじみやぼかし でぬくもり・素朴さを感じさせる東北ら しい表現を融合させ、男女問わず幅広い 年代の人に受け入れてもらえるデザイン にした。また、印刷にかかるコストを抑 えた単色印刷でも成立するよう考慮した。

中田 満里奈

包装紙

ESIGN GRADUATION WORKS

NOVEMBER 2016







閉じた状態と開いた状態



ページをめくる

図録

家紋の意味・由来を伝承するための図録

一蛇腹折を活用したエディトリアルデザイン一

日本人の美意識が結集された日本の伝統 文様。そんな日本の伝統文様の洗練され たデザインに着目し、その魅力を多くの 人に伝えたいという思いから制作を始め た。家紋をはじめとした日本の伝統文様 は今日でも日用品やアクセサリー、ファッ ションなどさまざまなモノへの使用が確 認できる。しかし、日本の伝統文様の表 面的な美しさばかりが注目され、日本の 伝統文様の持つ奥深い魅力(意味・由来 等)が世間一般に広く認知されていないの が現状である。そこで、日本の伝統文様の中でもデザイン性に優れ、誰もが身近に存在を感じることのできる"家紋"を題材に取り上げ、家紋の意味・由来に触れる端緒となるような図録を制作した。この図録を手に取った人々に、日本の伝統文様の奥深い魅力を感じてもらえれば幸いだ。

福西 友実

11

_

`		
~	★化の	١

4

		•	٠
	L		
	ľ	•	٦

/

	_	٩	
ч		J	

9

п		٦
- 1	- (1

-	-
1	- 1
1	- 1

12

13



お椀とプレートのセット



プレート

漆でお米をおいしく

漆とお米は共に需要の減少傾向にある。 また、以前はお米を食べる器も漆器で作 られたものが多かったが、最近では陶器 を使う家庭が多いように思う。そこで、 米と漆を組み合わせて新たに現代の食生 活への提案が出来ないか、漆器がお米を 食べる道具としてもう一度蘇ることはで きないかと考えた。"漆でお米をおいしく" というテーマで研究していたが、味だけ ではなく"健康面でもおいしく"というこ とを考え調査したところ、ワンプレート

にたどり着いた。健康的な食事の基本は 1汁3菜である。普通のワンプレートで は、この1汁はバランスを保って置くこ とが難しい。漆のワンプレートでは、お 椀がプレートに綺麗にはまることを課題 にした。それに伴い、お椀のデザインも プレートにはまりやすく取り出しやすい 形になった。

植竹 春日

漆芸作品(轆轤·木工)

15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	勤労感謝の日
24	
25	
26	
27	
28	

30

DESIGN GRADUATION WORKS

DECEMBER 2016









試作(糸)



試作

漆糸の研究と製品制作

一編み目の活用一

奥会津三島町では糸玉という縄文時代の漆工品が発掘され、伝統的工芸品である編み組細工がつくられている。今回の研究では、糸と漆の研究および新しい編み組細工の提案として同じ地域から出土した糸玉と関連付けたカバンの制作を試みた。はじめに、使用する糸の種類・太さ・縒りの本数および使用する漆の色・希釈の配合比率・塗りを行う回数について、制作に最も適した組み合わせを研究した。結果として、一本縒り紙糸・十六本縒り木綿糸の二種類、

漆:石油=3:7に希釈した黒漆を3回塗って拭き取ることに決定した。次に、編み組細工と製品についての調査とアンケートを行った。内容は糸の編み方・カバンのデザインを決めるためのもので、得られた結果をもとに本格的な制作を開始した。デザイン案の決定は特に難しく、製作過程で多少の変更や修正も行った。最終的に、落ち着いたデザインをコンセプトにすえ、制作した漆生地の色味に合わせた革や布などのパーツでカバンを構成した。

漆芸作品(編み組)

菅野 麻結





大小2種類



フタを開けた様子



休日の大人のための漆鞄

現代の新たな漆製品の需要について考え た場合、一つのターゲットとして戦後べ ビーブームに産まれ、社会形成のため尽 力し、会社勤めを終え、それぞれが第二 の人生を謳歌している世代への提案が挙 げられる。彼らは趣味でよく旅行をする という統計結果があり、中でも国内旅行 の人気が特に高い結果がみられた。旅行 先での宿泊時にホテルや旅館に荷物を置 き、散策やお土産を買い、外食をする人 も多い。財布や携帯電話は常に持ち歩く

必須アイテムであるが、最低限の持ち物 があれば良いのではないかという点から、 財布と携帯電話の大きさに合わせた小さ な革の鞄を制作しようと考えた。また、 この世代の特徴でもある持ち物へのこだ わりと、同様の旅をする同世代へのアピー ルも考えたとき、存在感を発揮する革と 漆の鞄に新たな漆製品の可能性があるの ではないかと考え、その発想を基に研究 制作を試みた。

酒井 和希

	15	
	16	
	17	
	18	
医松羊	19	
	20	
	21	
	22	
	23	天皇誕生
7 / //	24	
模様部分の拡大	25	
漆芸作品(漆皮)	26	
	27	
	28	
	29	
\T. I. <- ×	30	

DESIGN GRADUATION WORKS

JANUARY 2017









上面の紋様

漆芸作品(蒔絵・螺鈿)

受け継がれていく漆

一想いを漆にのせて一

思想や世の中の動き、様々なものが時代の移り変わりとともに変わっていく。そんな中でも変わらないものの一つに「母から子への愛」があると考えた。自分の原点である故郷、青森に居住していたアイヌ民族は、母から子へ刺繍の技術を受け継いで大人になっていったという。この刺繍は魔よけとして衣服などに施されたもので、刺繍の文様には一つひとつ意味があり、子を悪いものから守る「親の愛」がこめられている。今回の卒業研究ではア

イヌの文様から「伝わる」デザインを学び、想いを形にすることに挑戦した。メインとなる上面の文様には「シク」、「アパポエシリキ」、「モレウ」の三つの文様を構成し、「上から優しく見守っている」という意味になるようデザインした。

坂本 杏理

14

元日





横から見た状態



実際に盛り付けた様子

新しい漆食器の提案

- これからの2人のために-

現在の漆器産業は衰退しつつあるが、その原因とは何だろうか。職人不足や人々の生活様式の変化など、原因はいくつか考えられる。その中でも、今回は「現在多く見かけられる漆器が、人々の需要と離れている点があるため」と仮定した。人々の需要、つまり、現代が求める漆器とは、日々深刻さを増す高齢化現象をカバーできるようなものではないだろうか。次々と定年を迎え、第2の人生をスタートする熟年層の方々。10~20年後、身体的

な動作に変化が起きた時にも、寄り添うような使い心地で共に過ごしていける漆器があったなら…。ということで、今回の制作を行った。持ったときに手によくなじむ形状と安定感を追求し、試作を重ね、普段使いにも使いやすいよう白漆で塗りをした。また、白漆は時間の経過で色味がどんどん白く変化していくという特徴があるので、ぜひ毎日生活を共にして、時の移り変わりを感じてほしい。

漆芸作品(轆轤·乾漆)

佐藤 沙妃

15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30

FEBRUARY 2017



3

4

5

6

7

8

9

10

建国記念日

12

13

14



保管用の箱

髪留め





冠婚葬祭と漆

私達の日常生活の中に、「冠婚葬祭」といっ た行事の考え方がある。日本の伝統行事 だが、現代人はその意味を正しく理解し ているだろうか。「冠」は成人、「婚」は結 婚、「葬」は葬儀、「祭」は法事・お盆を意 味し、それぞれが独自の風習や形式に沿っ て行われてきた。しかし、現代社会では 様々な要因からこの伝統行事が簡易化・ 省略化されつつある。改善していく為に、 薄らぎつつある伝統行事と伝統工芸であ る漆を組み合わせ、それぞれの行事で身

につける装身具とそれを保管する箱を制 作した。受け継いでいく過程の「永遠性」、 「未来への可能性」を表現する為に命の流 れを途切れることのない繋がりが表現さ れている無限大記号をモチーフにし、真 鍮と漆を用いそれぞれの行事で使い分け る装身具と保管する箱を制作した。これ らを子孫へと受け継ぎ、繋がりの過程が 繰り返されれば冠婚葬祭や漆の価値が高 まり、「今日は特別な日」であることの象 徴になると考える。

金工・漆芸作品 (螺鈿・蒔絵)

芳賀 祥子





箸・おもちゃ・マナーブック





おもちゃのお弁当



箸を持った様子

玩具

子供のための箸トレーニング おもちゃの提案

近年、箸を正しく使えない子供が増加しており、数多くある箸のマナーも知らない人も増加してきている。幼少のうちから正しい箸の持ち方を身に着けておくことが重要だと考えられる。そこで今回、子供でも楽しく練習できる箸のトレーニングおもちゃを提案した。箸の形状は、サポート部を凹凸で形成することで指の置き場や持ち方がわかるように設計し、通常の箸への移行がしやすくなるようにした。おもちゃは、お弁当をモチーフに

することで子供も親しみやすいものになったのではないか。また、一部はパズルのようにすることで考えながら遊べるようにし、異なる素材を使用することで掴み方の感覚に差を持たせることも目指した。さらにマナーブックを付属させることで親子でマナーについても学べるようにした。箸を使い、おもちゃで遊ぶことでトレーニングに対するマイナスなイメージを取り除きながら、子供の手の発達を促すことができた。

今井 千聖

MARCH 2017







マルチケースから出した状態

持ち歩ける防煙マスク

一身を守るためのツールとしての選択一

火災での死亡者数は年間2千人を超える と言われている。その死亡原因として最 も多いのが、火災によって発生した煙に含 まれる有毒なガスの吸引によるものだ。 火災発生時、私たちは有毒ガスから少しで も身を遠ざけることで、避難の確実性をよ り向上させることができると言えるだろ う。よって本研究では火災発生時にどの ような対処を行うべきかを調査し、市場に ある製品の分析から、有毒ガス吸引のリス クを減らすことができ、持ち歩くことの

できる防煙マスクの提案をした。持ち歩 くことでバッグやポケットの中に新たな スペースを必要とすることの無いように、 普段必ずといって良いほど持ち歩いてい る携帯電話や、ちょっとした小物などと一 緒に収納できるマルチケースとしても使 用できるデザインにした。このようなマ スクが防災グッズとして消費者の選択肢 の中に含まれていくことが、私たちの防災 に対する意識を少しずつ変化していく きっかけになっていくと考える。

防煙マスク

尾形 彩

2

3

4

5

6

8

9

10

11

12

13







小水力発電を身近に

2011年3月11日、私たちは未曾有の大震 災に見舞われ、大きな被害を受けた。その 中で私たちに最も影響を及ぼしたのが「福 島第一原子力発電所」の事故である。私た ちにはこの事故によりエネルギー問題とい う課題ができた。このときに注目を浴びた のが自然エネルギーである。私はこのエネ ルギーの中でも小水力発電に注目し調査 したが、この発電方法は設置、普及が難し い課題があるということがわかった。同時 にこの発電にしかないメリットが数多く存

在することも分かった。これを活かせない かと思い、私は小水力発電について研究す ることにした。小水力発電を身近に扱える 物になるように、プロトタイプ製作による 実発電量の計測とその電力の使い方並び に、景観に適したデザインの提案を目的と して本研究を進めていき、発電量の計測を 行うためにダイナモ発電機を組み込んだ 小型水車ユニットの試運転モデルを製作し た。だが、目的を達成できるほどの発電量 を得ることはできなかった。

金田 祥平

30

	15	
	16	
	17	
	18	
	19	
	20	春分の日
稼働実験中の水車	21	
	22	
MT- C MT-2B	23	
CHING 8210	24	
実発電量	25	
発電機	26	
	27	
	28	
	29	

DESIGN GRADUATION WORKS APRIL 2017







遊びの様子



遊びの様子



収納箱

高齢者と孫世代をつなぐ製品

- コミュニケーションツールとなるおもちゃの開発-

近年、高齢化が進んでいる。65歳以上の高齢者のいる世帯において、三世代世帯は減少傾向にあり核家族世帯や単独世帯は増加傾向にある。また、若者はスマートフォンなどの機器の導入により幼い頃からネットに触れる機会が増え、コミュニケーションを取ることが苦手になっていると言われている。このことから高齢者と家族(子や孫)のコミュニケーションをとると孫との間にコミュニケーションをとる

機会やきっかけを与えられることを目的とした製品の提案に取り組んだ。ブロック遊びを通じてコミュニケーションをとり、その思い出を収納箱に付属している写真立てに飾るという形で提案した。ブロックは数多く制作し、自分たちで遊びを考えることもできるようにした。5つの遊び方とルールちらし、収納箱、遊ぶための木の土台などを制作した。モニタリングの結果、製品は高齢者と孫世代をつなぐ良いきっかけになったと感じた。

玩具

佐藤 ちひろ

4

\circ				
		_		
	ø			

4

$\overline{}$
/

$\overline{}$
O
\frown
${}$

_	_
7	
- 1	1

п.	7
1	- 1
	- 1

п	0
н	
•	_

٦.	\circ
н	\prec
	\cup





常温野菜を入れるスペース



野菜ストッカー上部

家庭における食品ロスを減らすための製品の提案

一電気を使わない野菜ストッカー―

「食品口ス」という言葉を聞いたことはあるだろうか。私たちは年間約1,700万トンもの食糧を捨てている。しかしそのうちの約800万トンはまだ食べることができる部分なのだ。食品口スとはこの食べることのできる部分のことをいう。そしてこの食品口スの約半分は家庭から出されているのだ。そして家庭から出されている食品口スの中でもっとも割合が高いのが野菜である。私はこのことに着目して野菜の食品口スを減らすための製品を

提案することにした。野菜にとってよい環境とはどのようなものか調査・実験を行い、結果から低温・高湿度・低酸素の状態が良いことが分かった。その結果を元に水に野菜を入れて保存することを考えた。実際に製作してさらに実験を行い成果品の検証を行った。その結果、提案した野菜ストッカーは十分に野菜を長持ちさせることができた。今回の研究で直接廃棄による食品ロスに対しての解決案としては有効なものであったと感じる。

野菜ストッカー

渡部 春希

昭和の日

JUNIOR COLLEGE OF AIZU

卒業作品集 DESIGN GRADUATION WORKS 2016

編集丨

北本 雅久 後庵野 かおり 加藤 早織 板橋 芽衣子 発行 |

会津大学短期大学部 産業情報学科 デザイン情報コース 〒965-8570 福島県会津若松市一箕町大字八幡字門田1-1 TEL 0242-37-2300(代) URL http://www.jc.u-aizu.ac.jp 2016年3月

